

# 森づくり サポーターニュース

県営都市公園  
びわこ地球市民の森

Vol 91

令和6年12月20日号

びわこ地球市民の森(森づくりセンター) 〒524-0102 滋賀県守山市水保町2727  
TEL:077-585-6333 FAX:077-585-6312  
biwako@moridukuri.info <https://www.moridukuri.info>

## 森の生き物たち(3:鳥等)

まず先に前号「節足動物(昆虫類・多足類)」の訂正をします。生態系ピラミッドの第一次消費者は草食動物、第二次消費者は肉食動物で、節足動物はどちらにも入ります。

今号は鳥類を、2020(令和2)年度に(株)ラーゴに調査依頼したまとめを参考にして紹介します。鳥類は生態系ピラミッドの第一次消費者(草食:カルガモ他)、第二次消費者(肉食:シジュウカラ他)、高次消費者(猛禽(きん)類:タカ類)の3つのランクに入ります。現地調査により確認された鳥類は、春季45種、初夏38種、夏季30種、秋季44種、冬季52種で合計13目33科72種で、季節的な移動は下表のとおりでした。(各季それぞれ2日調査)

季節移動型	種数	割合	確認された主な鳥類種
留鳥	39	54.2%	カルガモ、アオサギ、シジュウカラ、ヒヨドリ、カワラヒワ等
冬鳥(越冬に)	19	26.4%	コガモ、タシギ、ハイタカ、ジョウビタキ、アトリ等
夏鳥(繁殖に)	10	13.9%	コチドリ、サンコウチョウ、コシアカツバメ、オオヨシキリ等
旅鳥(一時的)	4	5.6%	オオムシクイ、メボソムシクイ、コヨシキリ、エゾビタキ
合計種数	72	100.0%	-

また、5年前の2015(平成27)年の調査と合わせると14目35科89種が確認されました。

優先率上位10種は、ムクドリ、スズメ、ツバメ、ヒヨドリ、ハシボソガラス、キジバト、カワラヒワ、コガモ、ホオジロ、ハシブトガラスの順で、平野部の人里に近い開けた環境を好む種が多いといえます。注目種としては「県鳥」のカイツブリや猛禽類のハイタカ、オオタカ等、そしてカワセミ、タシギ、絶滅危機増大種のヒクイナ等計26種が見られました。

びわこ地球市民の森は水辺、草地、樹林が混在して多様な環境になっているため、その環境にあった鳥類が見られます。詳しくはホームページの「森の図鑑」をご覧ください。



カルガモ 春季



ムクドリ 春季



カワセミ 秋季



オオヨシキリ 初夏

# 「秋の森づくりサポーター活動」開催！

今年度の第3回「森づくりサポーター活動」について、令和6年10月19日（土）に自然観察を、10月30日（水）に育樹活動を実施しました。

10月19日（土）の活動には、ガールスカウトなど10名の皆さんが参加されました。当日は途中から雨が降ってきましたが、雨が降るまでは園内で自然観察を行い、ひっつき虫やドングリについての説明を聞きました。途中から雨が降ってきたため、室内で絵や写真を使った園内の植物等についての説明を興味深く聞いていました。



開会式の様子



自然観察



屋内での説明

また、10月30日（水）の活動には、55名の森づくりサポーターの皆さんに参加していただきました。天候にも恵まれ、心地よい風が吹くなか3班に分かれていただき、作業をしていただきました。作業区域は間伐が遅れてうっそうとしていましたが、サポーターの皆さんはお互いに力をあわせて伐採、枝払い、玉切り、木の整理などの作業をしていただきました。おかげさまで、作業後は木漏れ日が差し込み、林内が少し明るくなったように感じました。



受付風景



間伐作業



間伐作業



搬出作業



枝払い作業



枝払い作業

# 「びわこ地球市民の森」の多様性 徒然

滋賀県の広報誌「滋賀プラス1」夏号（Vol.208）で、「多様な森林づくりのカタチ」と題して、特集が組まれています。

「森づくり」にもいろいろな関わり方があります。

もともと野洲川南流の跡地に、基盤整備された築山に、2001年から2年生の苗木が植えられて始まった森づくり（植樹）。

2013年までにいろいろな種類の樹木が植えられました。その目的のひとつに「生物多様性・ビオトープ空間の創造」があります。

「植えられた樹を大きく育てる（育樹）」だけが森づくりではなく、いろいろな生き物が、来る・集まる・殖える・棲む・・・そんな空間にすることが大切です。

そのためにも、緑や自然が大事だからといって放ったらかしにしない、中が暗い「やぶ」にならないように、「森の手入れ」が大事！

林業では「育てて伐って使う」除草や枝打ちもしながら、木を収穫するために手入れをします。

「びわ森」では森全体が健全に育つよう、目的がかなうように、また公園としての機能も備わるように、間伐・除草などを行います。

具体的には、森の中に光や風が入るように混んだところを間引きします。

またクラフトの材料や薪・原木に利用するためにも伐採します。

安全のため見通しを良くしたり、森の中に入って遊ぶためにも伐採します。

生物多様性の観点から、成長が遅くても、曲がっても、危なくなければ枯れ木も、山の賑わいで「森」の大切な要素です。林業では伐られます。

「里山」は、誰かが里山をつくろうとして造られたのではなく、昔から繰り返されてきた、薪や炭の供給地、落葉・粗朶・山菜・果実の採取地、生活用具の材料調達など、「やま」と人との経済的な関わりの中で出来上がり、そこに適応する他の生き物（草木・動物・キノコ・カビ）も含めての景観を「里山」と呼ばれるようになったそう。（エコノミーとエコロジー）

電気ガスが普及し、薪や炭が要らなくなり、山と人との関わりが疎になると山が荒れ藪になり、ますます入りにくくなり、生き物の多様性も乏しくなります。今更、昔の生活には戻れませんが、森が荒れないためにも様々に、今様に森とつながることは大切だと考えます。

生き物観察、虫捕り、レクリエーション、学習、ストレス解放、リハビリ、療養、読書、散歩、デートetc. 多目的に、気軽に 入ってください。

森づくりサポーターの皆様には、末永くご協力をお願いいたします。  
また、上のような観点からのご提案も賜わりたいと考えております。



2001年植樹の森

## 【森の多様化】



コケの仲間



切り株にキノコ



木に巻き付くツル、  
ツルに巻き付かれた木

## 【強い生命力】

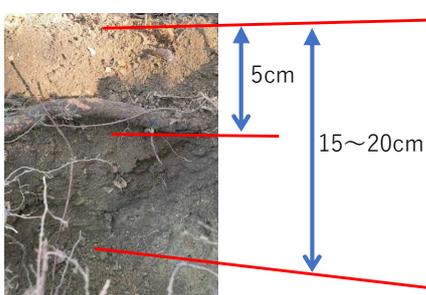


# 掘って観た！

## 2001年植樹の森 — 23年経過



落葉の下  
コロコロ団粒あり

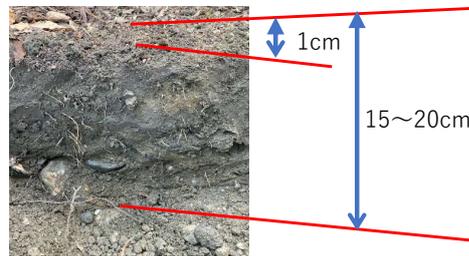


落葉の下5cmほどが軟らかく大小の根が網目状にあり掘り難し  
その下、15~20cmの層は黒っぽく、少ないが根も分布  
20cmより下層は、堅く明るい色の土砂（搬入土）  
「森」は常緑樹が目立ち、落ち葉の腐朽にも時間がかかるよう

## 2013年植樹の森 — 11年経過



落葉の下  
踏まれることが多く固結している



落葉の下、軟らかい層は1cmほど  
その下、15~20cmは黒っぽく細根が分布固結しているが、根が  
少ないので掘りやすい  
20cmより下は砂利石もある。現地流用土か



## 第4回森づくりサポーター活動のご案内

早春の森が、みなさんのお越しをお待ちしています。

開催期日 令和7年 2月27日(木) 育樹活動  
3月 1日(土) 自然教室

☆いずれも 受付 9:00~ 活動時間 9:30~11:30  
☆申し込み方法等、詳細についてはびわこ地球市民の森HPに掲載させていただきます。

### 森のデータ

森の面積	42.5ha
森の延長	3.2km
森の幅	100~200m
植樹面積	80,808㎡
植樹期間	H13~H25
植樹活動参加者数	45,994人
来園者数(R5)	340,832人
森づくり活動参加者数(R5)	13,543人
うち育樹活動参加者数(R5)	3,848人

### 編集後記

この1年を振り返ってみると「今年の暑さは異常気象といって差し支えない」とも言われるような年でした。そのような過酷な状況のなかでサポーターの皆様におかれましては育樹活動に熱心に取り組んでいただき、おかげさまで森も暑さに負けず元気に生長することができています。この森をますます元気にしていくため、来年も健全な森づくりにご協力賜りますようよろしくお願いいたします。